

## リンゴ病害虫の発生状況（8月中下旬）

### (1) リンゴ斑点落葉病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並でした（図1）。

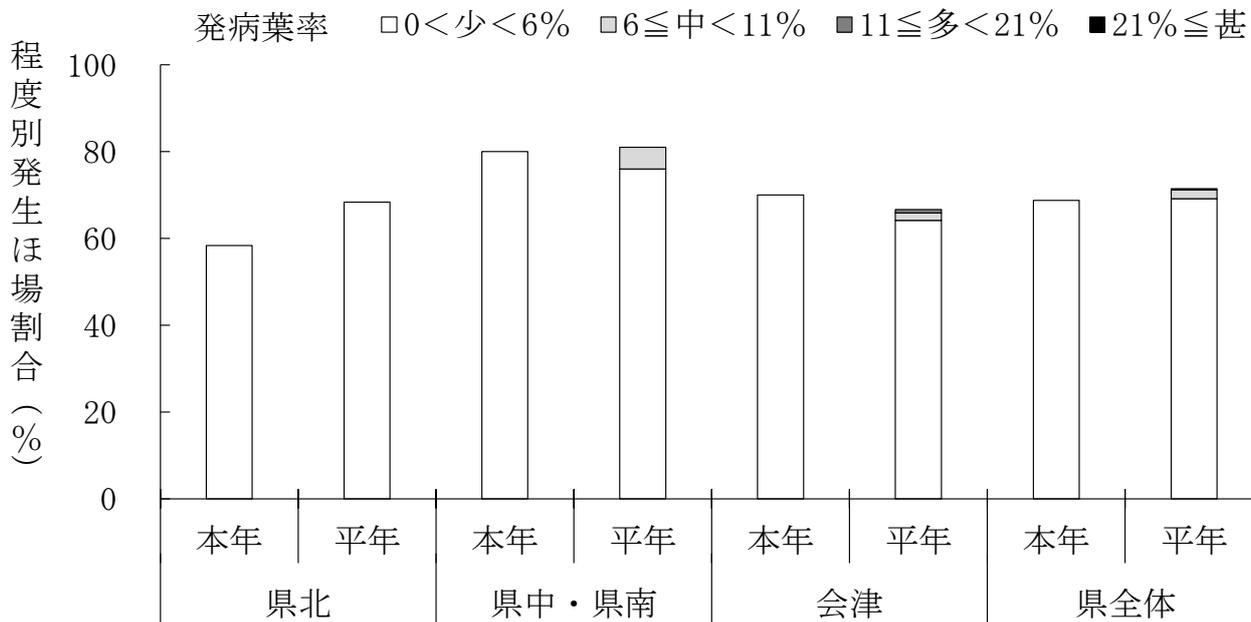


図1 リンゴ斑点落葉病の発生状況

### (2) リンゴ褐斑病

新梢葉での発生ほ場割合は、県北・会津地方では平年並、県中・県南地方では平年よりやや高い状況でした（図2）。発病葉率は全域で平年並でした。現在、本病の二次感染期になるため、感染拡大を抑制するため天候に注意しながら、散布間隔があきすぎないように薬剤散布を実施しましょう（令和7年6月30日付け令和7年度病害虫防除情報（リンゴ褐斑病）参照）。

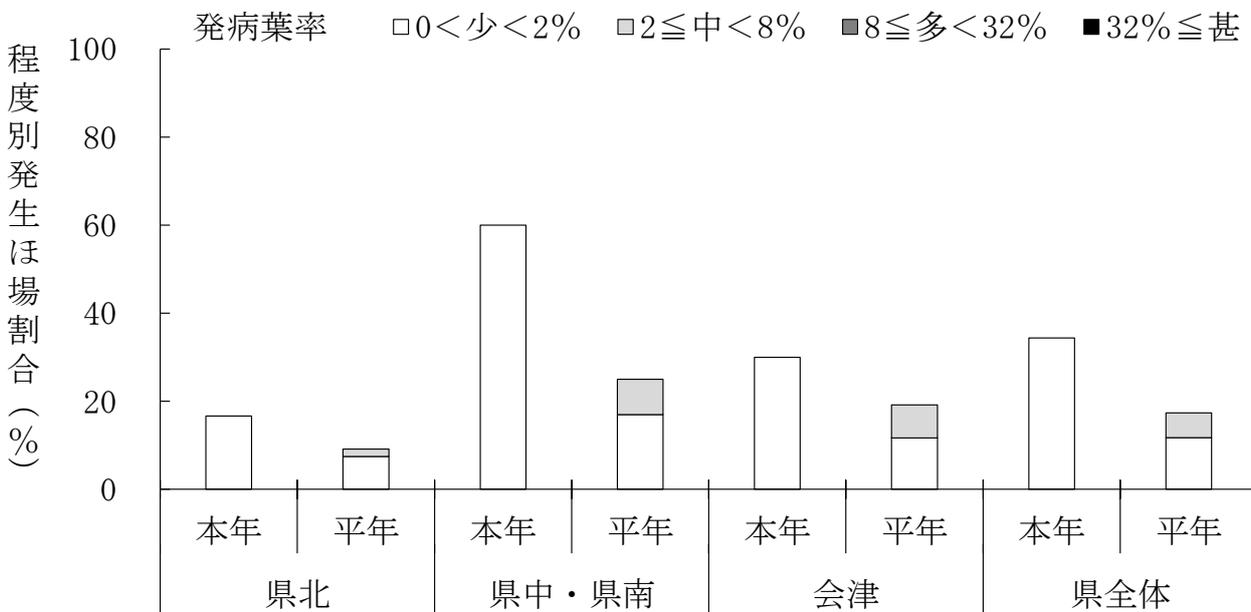


図2 リンゴ褐斑病の発生状況

### (3) リンゴ炭疽病

果実被害は、確認されませんでした。

二次感染を防ぐため、発病果実は園外に持ち出し、適切に処分しましょう。

#### (4) キンモンホソガ

新梢葉での発生ほ場割合は、県中・県南で平年よりやや高く、会津では平年並でした（図3）。本種の発生が多い場合は、防除を徹底しましょう。

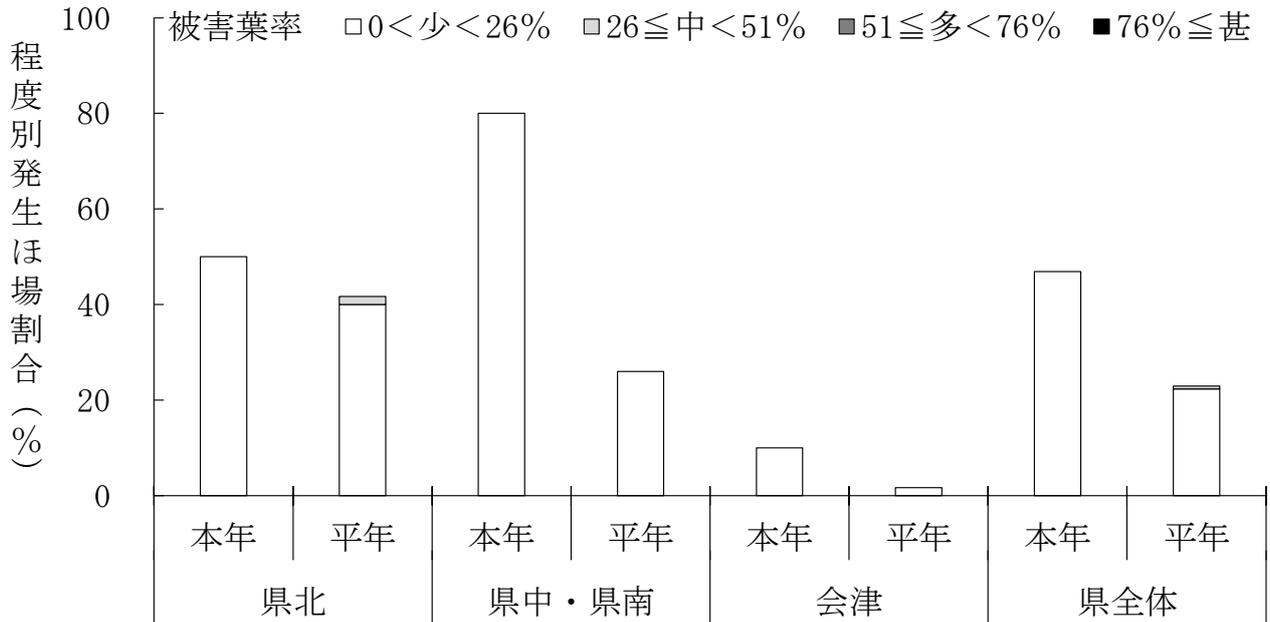


図3 キンモンホソガによる新梢葉の被害状況

#### (5) シンクイムシ類

ナシヒメシンクイ・モモシンクイガの果実被害の発生ほ場割合は、平年並でした。スモモヒメシンクイの果実被害の発生ほ場割合は県北・会津地方は平年並、県中・県南地方は平年よりやや高い状況でした（図4）。シンクイムシ類の発生が多い場合は、防除を徹底しましょう。また、被害果は園内に放置せず適切に処分しましょう。

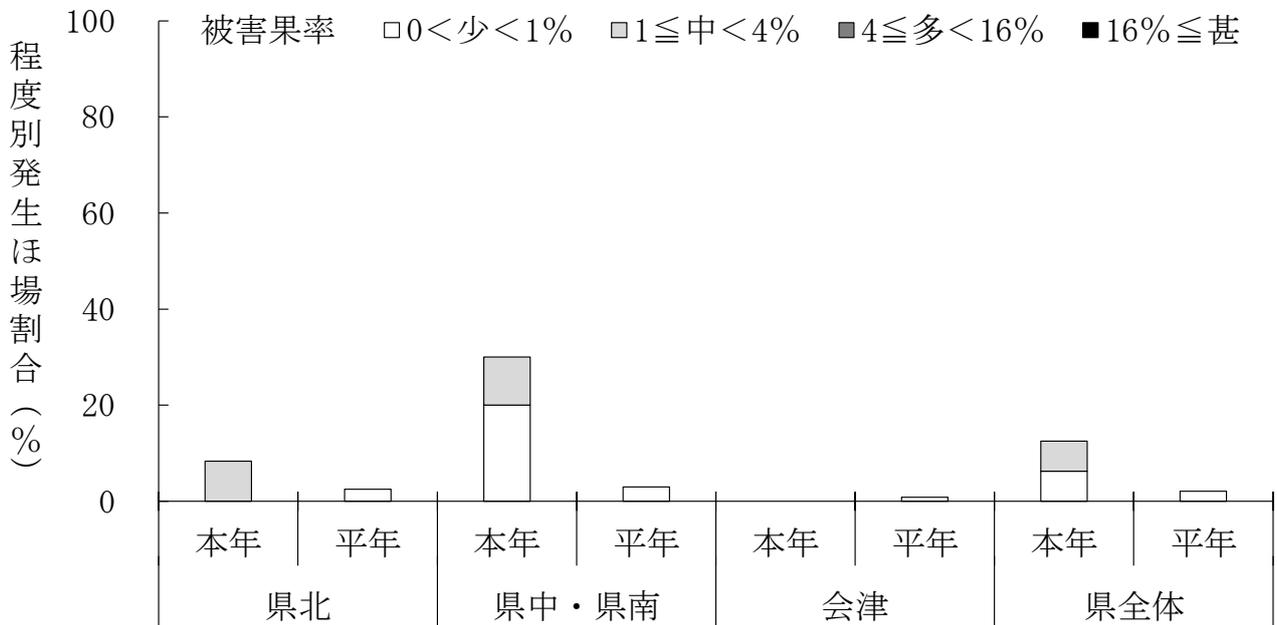


図4 スモモヒメシンクイによる果実の被害状況

#### (6) ナシマルカイガラムシ

県北地方や県中・県内地方では、ナシマルカイガラムシの果実被害が確認されています。今後、気温が2℃高く推移した場合、本種第3世代のふ化開始は、9月2半旬頃と予測され、ふ化盛期は9月4半旬頃と推定されています（果樹研究所、8月26日現在）。すでに本種の被害が確認されているほ場や例年発生が認められるほ場では、第3世代幼虫の防除を徹底しましょう。なお、発生予測は、今後の定期予察情報や果樹情報も参考にしましょう。

### (7) ハダニ類

新梢葉の発生ほ場割合は平年より高く（図5）、葉焼け症状が多数のほ場で認められ、落葉したほ場も確認されました。東北地方の1カ月予報（令和7年8月28日発表）によれば、向こう1カ月の平均気温は高いと予想されています。園地での発生状況をよく観察し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

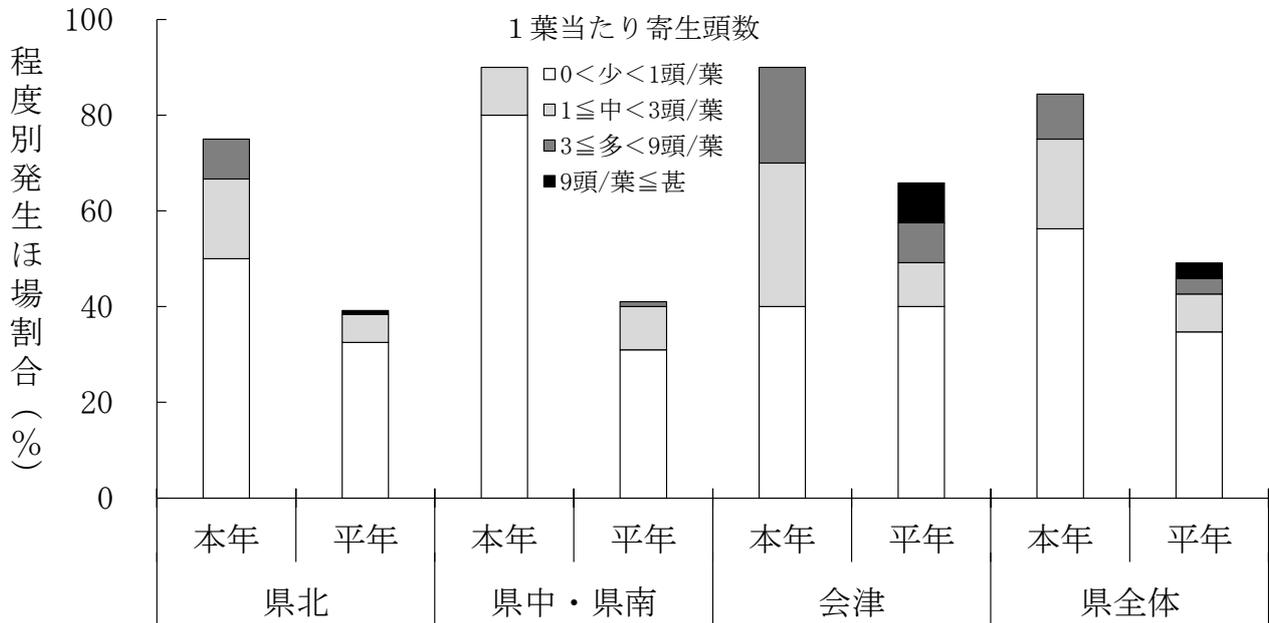


図5 ハダニ類の発生状況

### (8) カメムシ類

果実被害の発生ほ場割合は、平年よりやや高い～高い状況でした（図6）。カメムシ類の園地への飛来状況をよく確認し、多数の飛来が確認された場合は、薬剤散布を実施しましょう（令和7年7月10日付け令和7年度病害虫発生予察情報注意報第1号参照）

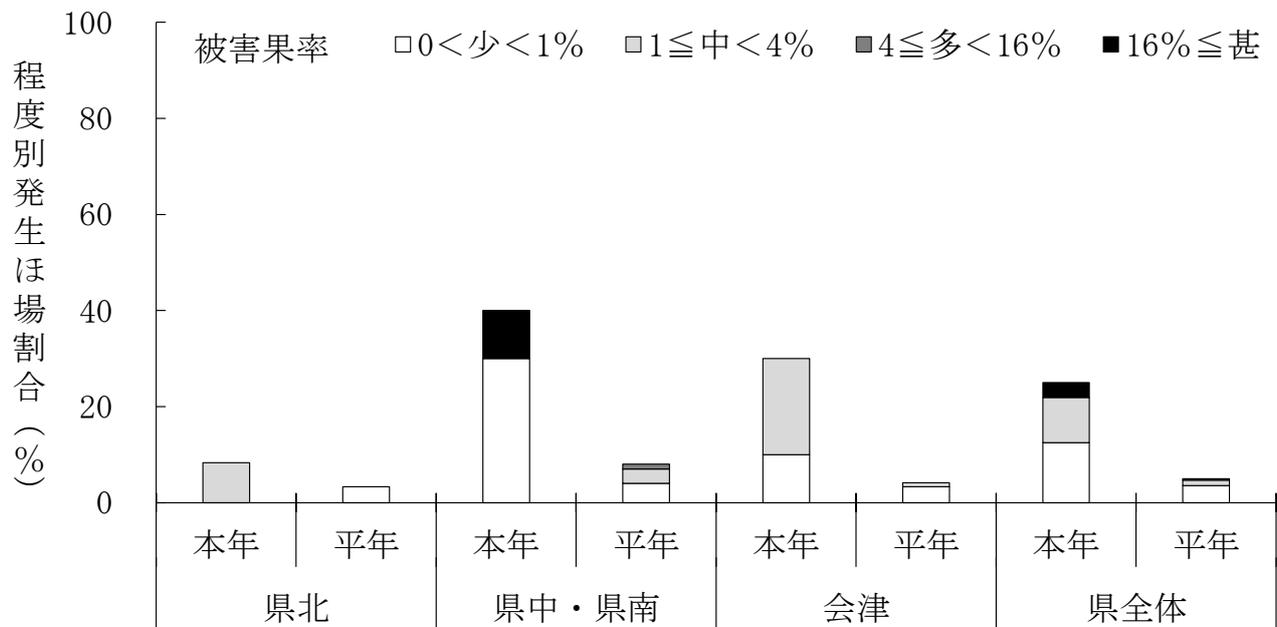


図6 カメムシ類による果実被害の発生状況

### (9) ハマキムシ類

果実被害は、確認されませんでした。

## モモ病害虫の発生状況（8月）

### （1）モモせん孔細菌病

8月の新梢葉での発生ほ場割合は、平年より低い状況でしたが（図1）、秋期に降水量が多いと、翌年の春型枝病斑の発生が多くなる傾向にありますので、秋期防除を徹底して、越冬菌密度の低下を図りましょう。

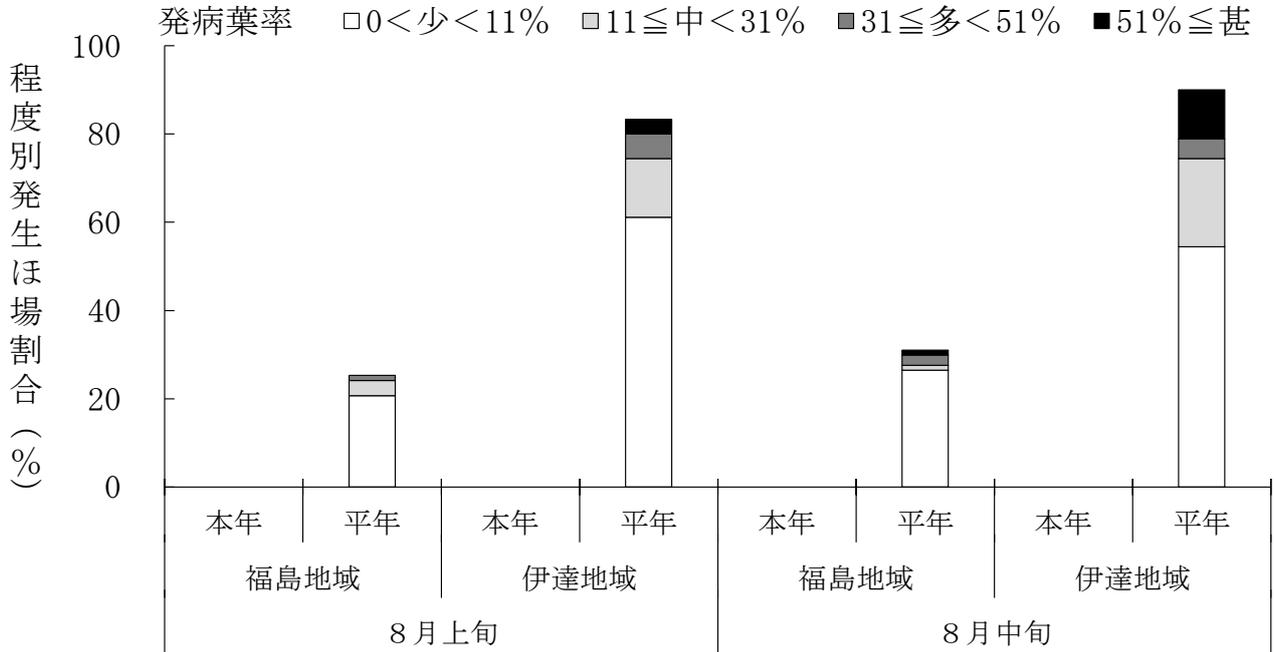


図1 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況（8月上旬、中旬）

### （2）モモハモグリガ

8月上旬の新梢葉被害の発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図2）。今後の気温が2℃高く推移した場合、本種の第6世代の防除適期は9月1半旬頃と推定されており（果樹研究所、8月26日現在）、発生が多いほ場では、収穫後でも防除を徹底しましょう。

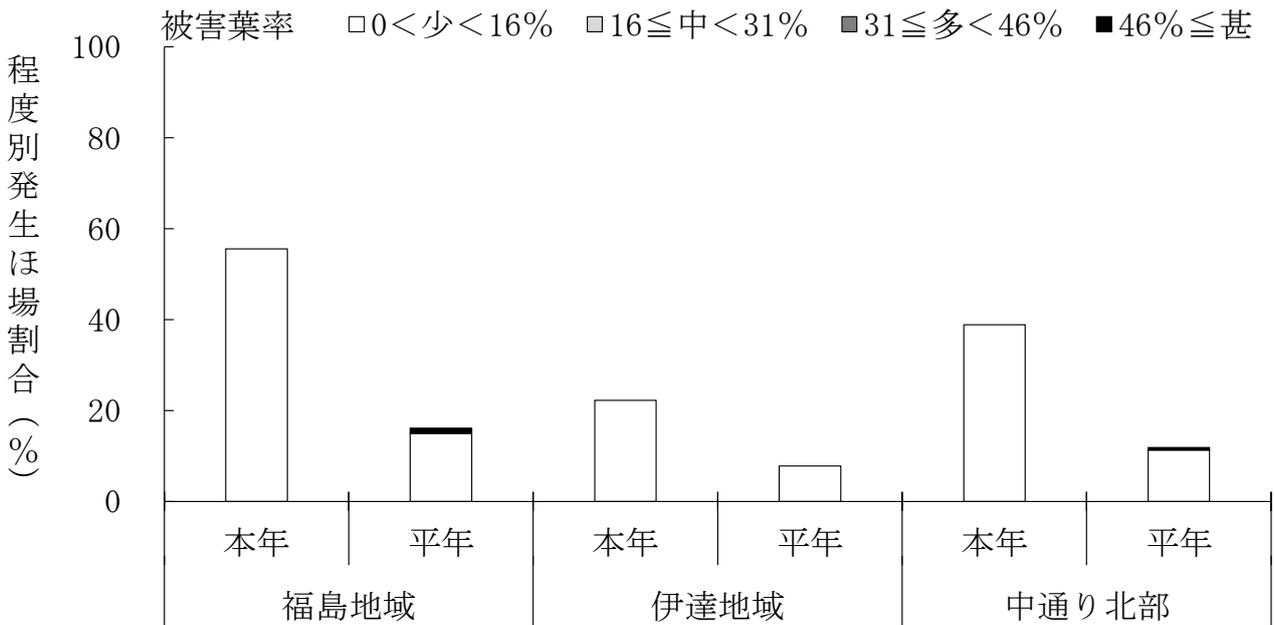


図2 モモハモグリガの発生状況（8月中旬）

### (3) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした(図3)。東北地方の1カ月予報(令和7年8月28日発表)によれば、向こう1カ月の平均気温は高いと予想されています。園内の発生状況を確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう(令和7年8月1日付け令和7年度病害虫防除情報(ハダニ類)参照)。

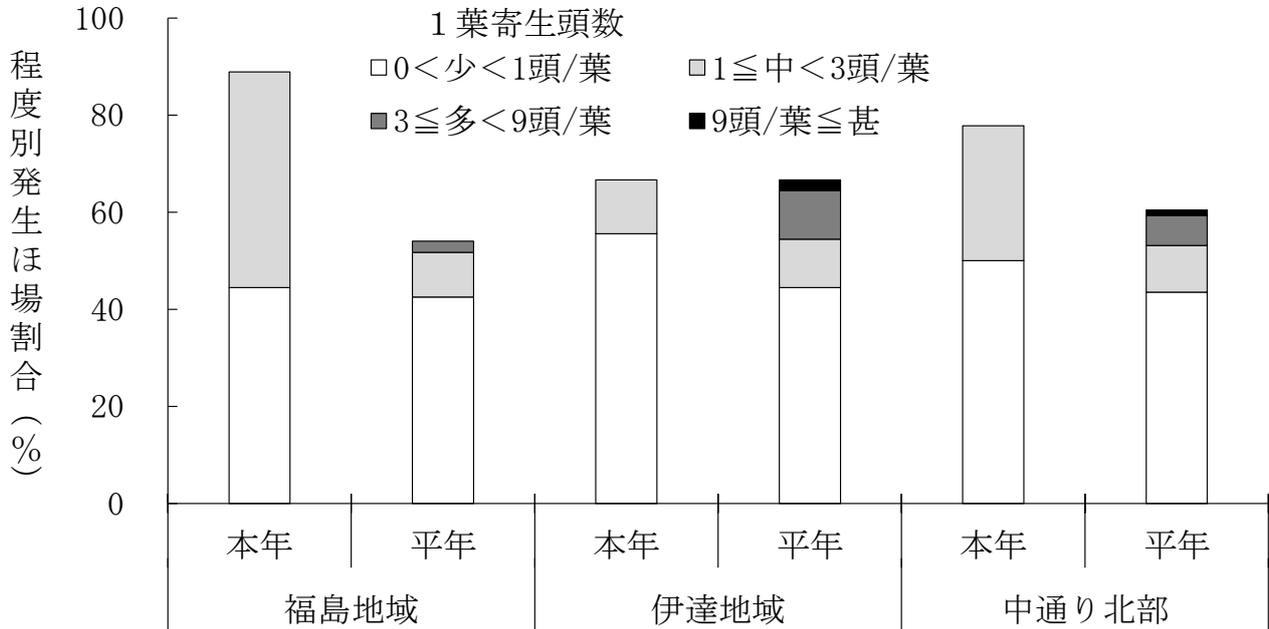


図3 ハダニ類の発生状況(8月中旬)

### (4) ナシヒメシンクイ・モモシンクイガ

ナシヒメシンクイによる新梢の被害の発生ほ場割合は、福島地域は平年並であり、伊達地域では平年よりやや高く、中発生ほ場が確認されました(図4)。今後の気温が2℃高く推移した場合、本種の第5世代幼虫の防除適期は9月1半旬頃と推定されています(果樹研究所、8月26日現在)。

モモやナシの果実被害や近隣のモモやウメ等の核果類の芯折れの発生状況に注意し、県農作物病害虫防除指針や地域の防除暦を参考に、農業使用基準を遵守し、晩生種の防除を徹底しましょう。また、モモシンクイガの発生は、いずれの園も確認されませんでした。

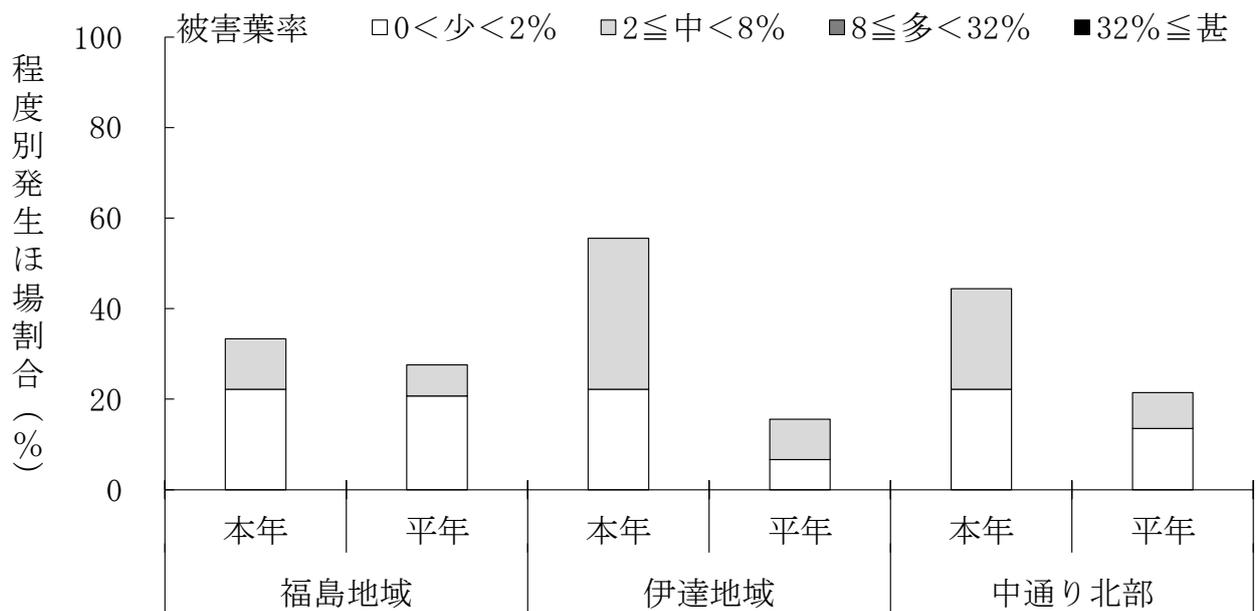


図4 ナシヒメシンクイによる新梢の被害状況(8月上旬)

### (5) シロカイガラムシ類・ナシマルカイガラムシ

農業総合センター内のウメほ場におけるトラップ調査の結果、ウメシロカイガラムシ第2世代の歩行幼虫のピークは7月23～30日と判断されました（図5、※昨年のピークは7月16～24日（図6参照））。昨年は9月中旬以降に第3世代の発生が確認されましたが、今年も9月中旬以降に第3世代が発生すると推定されます。

また、ナシマルカイガラムシの果実や枝への寄生についても、昨年と同様に複数の調査ほ場で確認されています。

シロカイガラムシ類やナシマルカイガラムシの発生が多いほ場では、極晩生種の果実被害や翌年の越冬量の低減のため、9月中旬頃に防除を行いましょう。

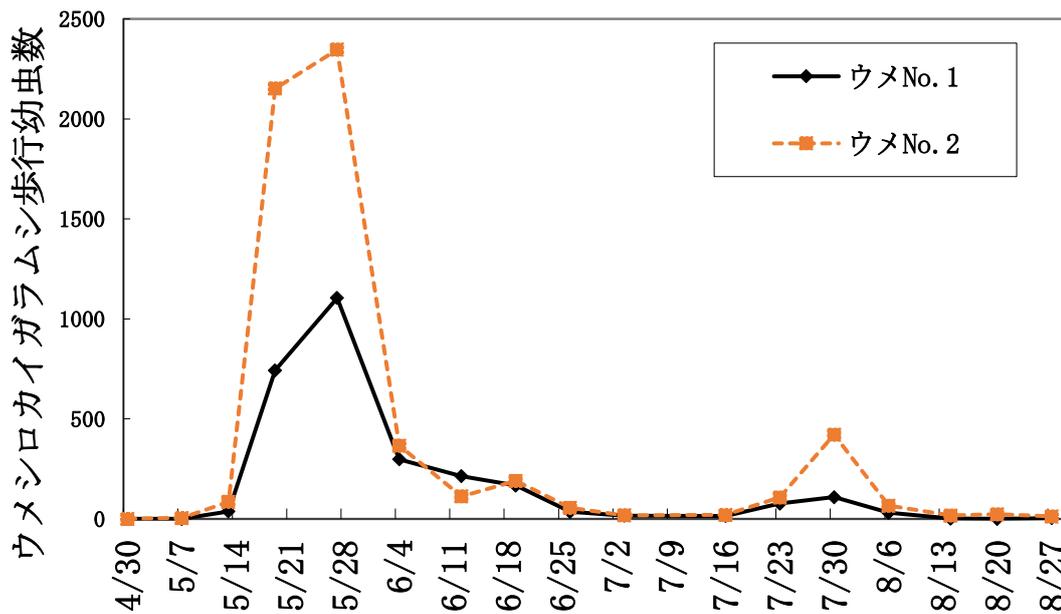


図5 ウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発生状況（8月27日現在、農業総合センター）

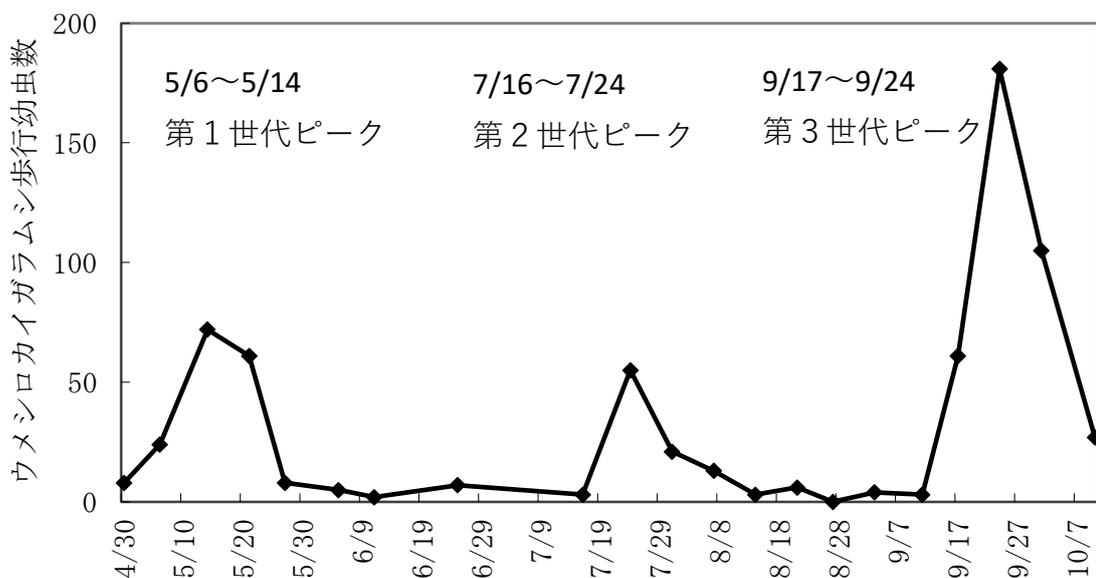


図6 ウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発生状況（2024年、農業総合センター）

## ナシ病害虫の発生状況（8月中下旬）

### （1）ナシ黒星病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並の状況でした（図1）。発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。本病の発生状況に応じて「幸水」収穫後の防除を実施しましょう。なお、果実での発生ほ場割合は、平年よりやや低い～低い状況でした（図2）。

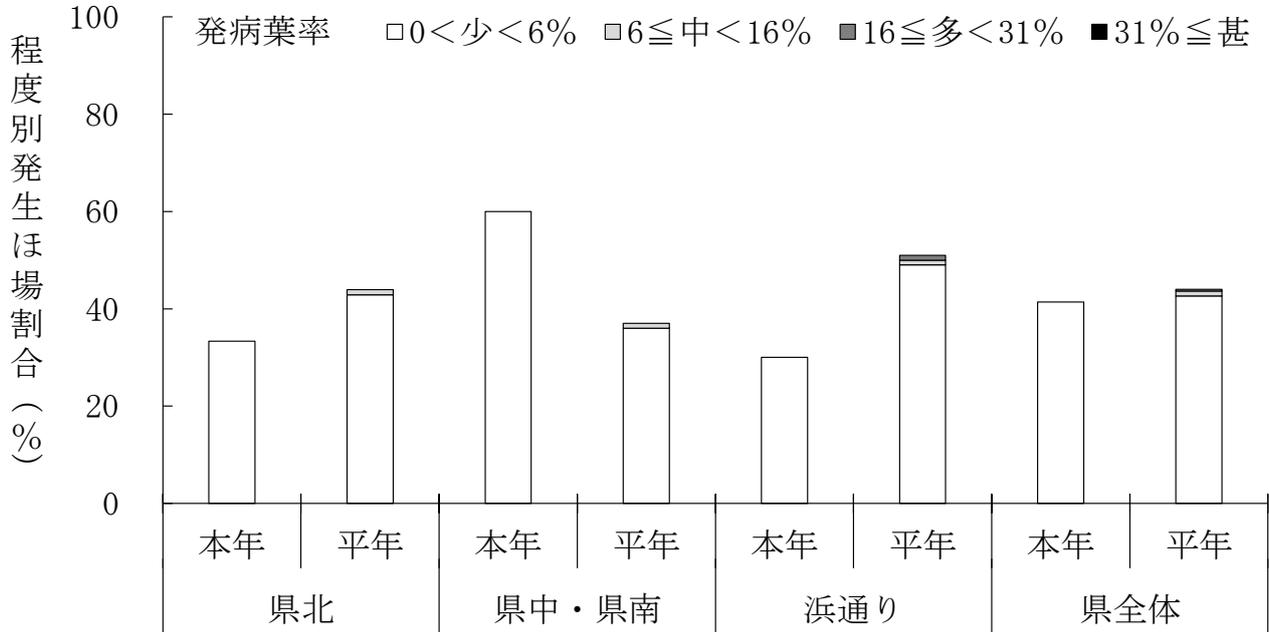


図1 ナシ黒星病の新梢葉での発生状況

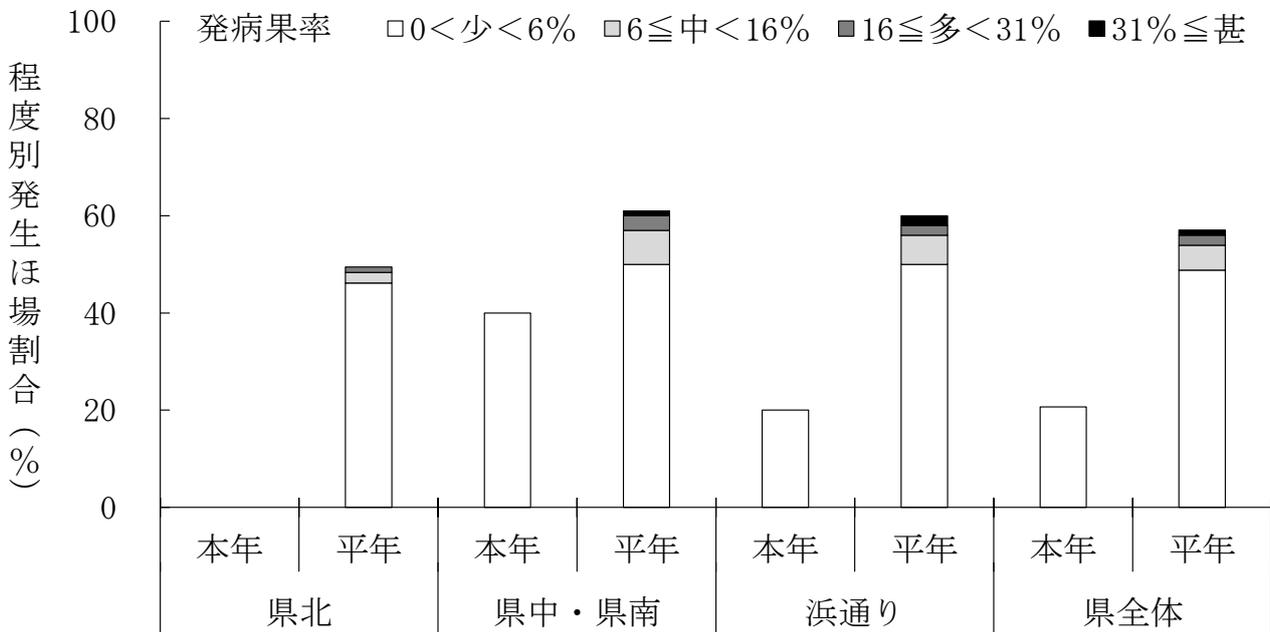


図2 ナシ黒星病の果実での発生状況

### （2）ナシ輪紋病

果実発病は、確認されませんでした。

### (3) シンクイムシ類

県北・県中・県南地方における果実被害の発生ほ場割合は、平年並であり、浜通り地方では平年よりやや高い状況でした（図3）。

今後の気温が2℃高く推移した場合、本種の第5世代幼虫の防除適期は9月1半旬頃と推定されています（果樹研究所、8月26日現在）。

近隣のモモやウメ等の芯折れの発生状況に注意し、県農作物病虫害防除指針や地域の防除暦を参考に防除を徹底しましょう。なお、昨年度、ナシヒメシンクイに対する防除効果が高く残効の長い殺虫剤が明らかとなりましたので、本情報も参考にしましょう（令和6年度参考となる成果、<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/680224.pdf>）。

また、本種第5世代幼虫は、9月下旬頃まで発生することがあるので（令和3年度参考となる成果、<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/504234.pdf>）、「あきづき」や晩生種に対しては、9月中下旬にも防除を実施しましょう。

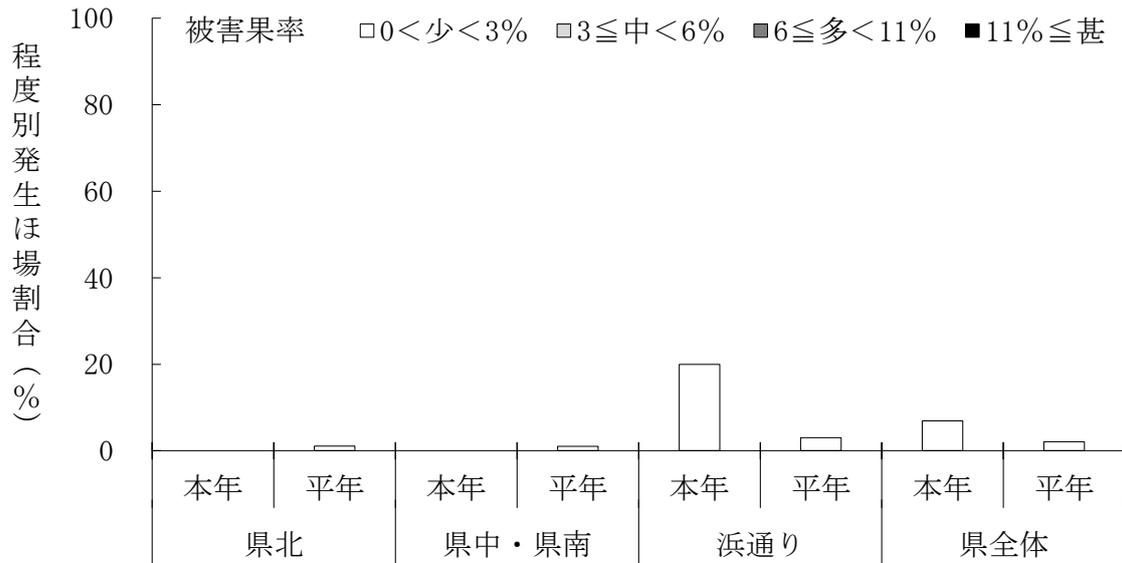


図3 ナシヒメシンクイによる果実の被害状況

### (4) ハダニ類

新梢葉寄生の発生ほ場割合は平年より高く（図4）、葉焼け症状が多数のほ場で認められ、落葉したほ場も確認されました。東北地方の1カ月予報（令和7年8月28日発表）によれば、向こう1カ月の平均気温は高いと予想されています。園内の発生状況を確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう（令和7年8月1日付け令和7年度病虫害防除情報（ハダニ類）参照）。

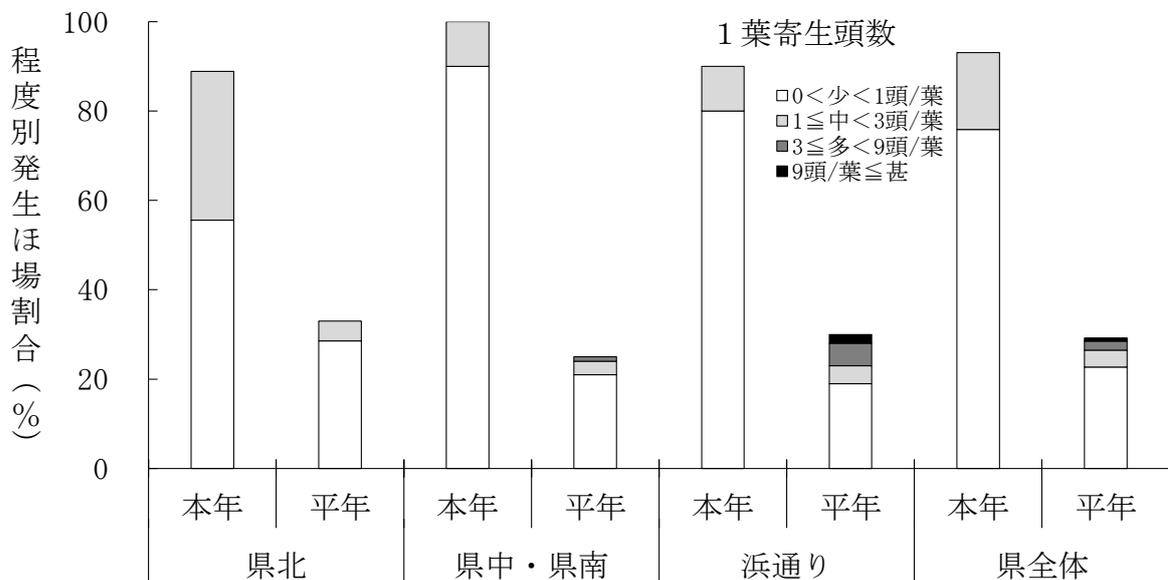


図4 ハダニ類の発生状況

### (5) カメムシ類

果実被害発生ほ場割合は、平年より高い～やや高い状況でした（図5、※浜通りでの果実被害の発生は全て相馬地方での発生）。カメムシ類の園地への飛来状況をよく確認し、多数の飛来が確認された場合は、薬剤散布を実施しましょう（令和7年7月10日付け令和7年度病害虫発生予察情報注意報第1号参照）

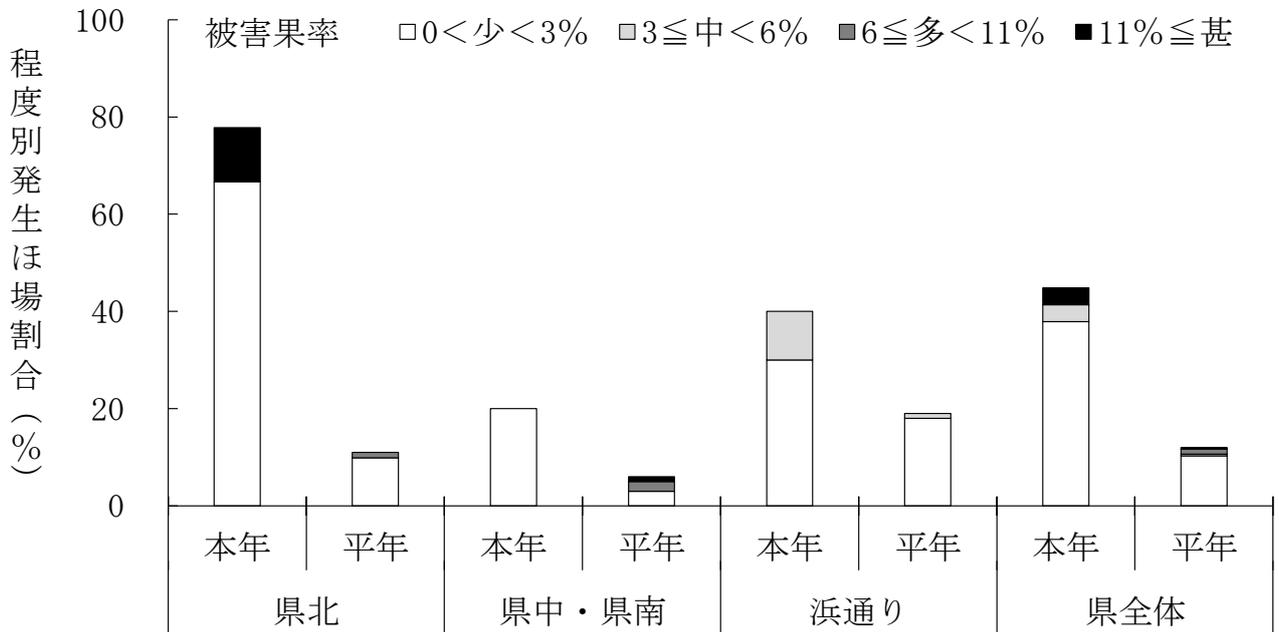


図5 カメムシ類による果実被害の発生状況